

第6回特別支援教育に関するセミナーが開催されました



平成27年12月12日(土)、高校生セーフティネット研究会主催の「第6回特別支援教育に関するセミナー」が、昨年に引き続き九州産業大学で開催さ

れました。希望が丘高等学校の生徒による木管三重奏で開会したセミナーには、教育関係者や保護者など約400人が参加しました。

基調講演では、東京大学先端科学技術研究センター中邑賢龍教授が、『『夢を実現できる』学びの環境のつくりかた』を演題に、「苦手を抱えた子どもたちに、タブレットなどのICTを活用した多様な学びや働きを創れば、誰にとっても生きやすい社会となるのではないか」と話されました。

分科会では、不登校、学習支援、就労支援、高大接続の4つのテーマに分かれ、博多高等学校・希望が丘高等学校・西日本短期大学附属高等学校・立花高等学校を主管として、それぞれ事例報告やパネルディスカッションを行い、問題提起や情報の共有を行いました。

第1分科会「不登校」部会では立花高等学校の先生が司会者・コーディネーターを務められ北星学園余市高等学校教頭田中 享先生などがパネリストとして活発な意見交換が行われました。

第4分科会「高大接続」部会では九州産業大学経済学部経済学科秋山優教授が、コーディネーターを務めた高大接続分科会では、国際文化学部臨床心理学科倉知延章教授がパネ



リストとして参加し、「高大接続 九州産業大学における障がい学生への対応」というテーマで、取り組み事例を紹介し、「ハード面、ソフト面において、障がいを持った学生が過ごしやすいキャンパスは、すべての学生が過ごしやすいキャンパス。全てを手助けするのではなく、本人の持つ力を最大限発揮できるよう、周りの連携した支援が必要」と話されました。